

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております)**2910号**

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 石田直裕：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>

冬晴れの立山連峰と富山平野を走る新幹線高架



も く じ

随 情 情
想 報 報フ
ォ
ー
ラ
ム政
策

- 「軽自動車検査情報提供システム」の構築について
総務省自治税務局市町村税課 理事官 廣瀬 広志(2)
- 二層つだつの町並みを活かした地域活性化について
「会音の和(あいねのわ)」、「つるぎの達人」の取り組み「徳島県つるぎ町」
復興だより 川俣シャモで元気を発信「福島県川俣町」
町村Navii
駅を中心としたコンパクトタウン「駅に降りてみたい 歩いてみたい」
住んでみたくなる町づくり」をめざして……… 福島県鏡石町長 遠藤 栄作(12)
- (10) (9) (5)

●写真募集●

表紙に掲載する写真を募集しています。採用者には、粗品を差し上げます。
写真には撮影者の住所、氏名及び撮影場所・日時を明記して下さい。なお、採否は当方に一任願います。
送り先：全国町村会・広報部

コラム

北陸新幹線開通に寄せて

早稲田大学教授

宮口 侗 廸
みやぐち とし みち

今回は私事にわたることを許されたい。
来る3月14日に、北陸新幹線が金沢まで開通する。私にとっては心待ちにしていた日であり、感慨深いものがある。

1982(昭和57)年に新潟・大宮間が開通した上越新幹線は、85年3月に上野まで到達した。その年の夏にいささか体調を崩し、暇に任せてJRの時刻表を眺めていた筆者に、「これは富山から通えるのでは」との考えがひらめいた。実はその時筆者にはいくつもの悩みがあった。子供たちが育ってもう少し広い家に移る必要はないか。そして地方の価値を信じる人間がこのまま子供を東京人に育ててよいのか。さらに富山市に住む高齢の両親の存在もあった。これらの悩みは、筆者が富山から通えばすべて解決すると考えたのである。

筆者は岐阜県と接する富山県の山村の小さな小中学校で過ごしたことが誇りである。村の大人たちと遊んでもらい、多くのことを学んだ。そしてこのことはその後の農山村の価値を考える上で、大きな支えとなっている。その後全国町村会の研究会や国土審議会の専門委員会、さらには過疎問題懇談会などで、地方の目線で議論に参加できることは、何よりもうれしいことであつた。いろいろな会議のため、飛行機に乗ることも多くなったが、しかし富山・羽田の飛行機はあわたたしく、早朝に列車に乗ってそこでもう一度30〜40分まどろむのが二日酔いの解消にもなり、健康にもよかったように思う。

当初長岡乗り換えで4時間を超えた富山―上野も、越後湯沢乗換えの北越急行(ほくほく線)が97年に登場し、3時間20分程度に短縮された。ただ有数の豪雪地帯を通るため、大雪の時には車両の窓よりも雪の壁が高くなる。運休も時折あり、その点では気苦労もあつたが、この気苦労からは間もなく解放される。富山では歓迎一色の陰で新幹線のストロー効果を心配する向きもあるが、筆者はこの変化を素直に喜びたい。

政策解説

「軽自動車検査情報提供システム」の構築について

総務省自治税務局市町村税課 理事官 廣瀬 広志

はじめに

軽自動車税については、昨年12月30日に決定された与党の「平成27年度税制改正大綱」において、また、本年1月14日に閣議決定された政府の「平成27年度税制改正の大綱」において、平成27年4月1日から平成28年3月31日までの間に最初の新規検査を受けた（道路運送車両法の規定による車両番号の指定を初めて受けた）軽四輪等（三輪以上）で、排出ガス性能及び燃費性能の優れた環境負荷の小さいものについて、その燃費性能に応じて平成28年度分の軽自動車税の税率を軽減する特例措置（以下「グリーン化特例（軽課）」という。）を導入することとされた。

また、平成26年度地方税制改正による地方税法等の一部を改正する法律（平成26年法律第4号）によつて、道路運送車両法の規定による初めて車両番号の指定を受けた月（以下「初度検査年月」という。）から起算して14年を経過した月の属する年度以後の年度分の軽自動車税の税率を加重する経年車重課について、平成28年度分から適用することとされている。

このような車両の保有課税における軽課や重課は、既に自動車税には導入されていたが、今般、軽自動車税に初めて導入されることとなった。

これまで、軽自動車税の税率は、車種区分に応じた単一の税率であったが、軽課や重課の導入によつて、同一車種区分でも複数の税率を適用することとなるため、適正な課税のためには、これまで以上に「軽自動車税申告書（報告書）」（以下「軽自動車税申告書」という。）の記載内容の確認が重要になってきた。

このようなことを背景として、今般、軽自動車税の課税事務の適正化・合理化に資するよう、「軽自動車検査情報提供システム」を構築することとなったことから、本稿では、その概要について解説することとした。

なお、このシステムの構築については、現在検討中であり、未確定な部分が多いことから、拙稿執筆時に想定されているものを基に解説をしているところであり、今後、詳細設計の中で変更が生ずることもあり得ることをご承知おき願いたい。また、文中意見に関する部分は筆者の私見であることを申し添える。

軽自動車検査情報提供システムの概要

1 提供の前提

前述のとおり、市区町村が、平成28年度分の軽自動車税のグリーン化特例（軽課）について適正な課税を行うためには、納税義務者等から提出していただく軽自動車税申告書の記載内容の適否について、市区町村として確認をする必要があるが、市区町村では、現在、排出ガス性能や燃費性能を確認する資料を持ち合わせていないところである。

また、経年車重課については、個車ごとの初度検査年月を把握する必要があるが、平成25年度以前の軽自動車税申告書には「初度検査年」のみを記入することになっていたことから、市区町村が、これらの車両の初度検査年月を把握することは困難な状況になっている。

さらに、経年車重課の対象外となる電気自動車やハイブリッド車の一部については、軽自動車検査証の「備考」欄の記載内容を確認しないと対象外となる車両であるかどうかの確認ができないものがある。

これらの燃費性能や初度検査年月等の情報は、軽自動車検査協会（以下「軽検協」という。）が管理する「軽

政 策

るようにするほか、その後の、新規取得をはじめとした異動に伴う検査情報についても、日々ダウンロードできるシステムとなるよう、機構にお願いしているところである。

5 各市区町村の負担等

現在、多くの市区町村においては、全軽自協から県外転出車両の情報を通常の1台当たりの情報提供の基本料に付加料を加えた額で購入していると聞いているが、この軽自動車検査情報提供システムを通じて機構から各市区町村へ提供される情報の提供料の単価については、市区町村の負担が過重とならないよう、機構が全軽自協から全国のデータを一括して購入することにより単価を抑えた上で、グリーン化特例（軽課）や経年車重課の対象区分の判定結果の情報を付加して、県外転出車両の情報も含めて、一律に、全軽自協の通常の1台当たりの情報提供の基本料程度以内の額となるよう、機構にお願いしているところである（したがって、このシステムの稼働後は、全軽自協から県外転出車両に係る情報を購入する必要はなくなる。）。

また、この軽自動車検査情報提供システムの中心となる、全軽自協から提供を受けた全てのデータを市区

町村ごとに切り分けて、市区町村がダウンロードできるようにするシステムについては、平成27年度中に機構が構築することとなるが、このシステム構築に要する経費についても、市区町村の負担が少なくなるような方策を講じていただくよう機構にお願いしているところである。

このように、この軽自動車検査情報提供システムによる機構から市区町村への情報の提供に際しては、上記2で述べたとおり、L G W A Nを活用したダウンロード方式にすることによりランニングコストを抑えることとしたほか、機構がシステムを構築するために要する経費についても、市区町村の新たな経費負担を極力抑える方向で検討が進められているところである。

このほか、検査情報を各市区町村の既存の税務システムに取り込むための改修が必要になると考えられるが、機構から提供される検査情報は、CSV形式（カンマ区切りテキストデータ）等の汎用性の高いファイル形式でのデータ提供を想定しており、特に小規模団体においては、税務システムの大きな改修をせずとも、市販のソフトウェアの活用で取込み等が可能となるようなデータへの加工ができるようにすることも

視野に入れて検討が進められているところである。

なお、以上の市区町村における検査情報の取得に要する経費については、普通交付税の中で、その所要額を含めて措置される予定である。この軽自動車検査情報提供システムについては、各市区町村と機構が個別に契約を締結していただくことにより実施することが予定されているが、情報の提供料の単価、各市区町村の実際の負担額や負担方法、負担時期等を含め、詳細は、後日、機構から通知していただくこととしているので、お待ちいただきたい。

6 その他の留意事項

軽自動車検査情報提供システムにより提供する検査情報は、軽自動車税を課する前提となる税申告による税情報を補完するものであり、税申告に代わるものではない。また、この軽自動車検査情報提供システムから提供される情報は車検の情報に限られ、軽自動車税申告書の内容が全て含まれているものでもないことから、現在、都道府県内の市区町村が共同して軽自動車協会等と委託契約を結んでいる軽自動車税申告書の収集・送付事務については、継続する必要がある。

おわりに

軽自動車税の課税事務は、グリーン化特例（軽課）及び経年車重課の導入により、これまで比べて、一層複雑なものになるが、適正な課税のためには、全ての市区町村において検査情報を手することが必須となるため、関係機関のご理解をいただきながら、最も現実的で、経済的で、合理的な方法として、この軽自動車検査情報提供システムを構築することとなったところである。

この軽自動車検査情報提供システムは、自動車税における同様のシステムに倣って構築するものであるが、システムの構築に当たっては、これまで述べてきたとおり、市区町村の負担を極力軽減する方策を講じながら検討されているところであり、各町村におかれては、機構が構築する軽自動車検査情報提供システムを活用して、軽自動車税の適切な課税の実現を図っていただきたい。

なお、本件については、「平成27年度地方税制改正・地方税務行政の運営に当たっての留意事項等について」（平成27年1月23日付け総務省自治税務局事務連絡）においても触れているので参考とされたい。

フォーラム

▷隆盛を今に伝える二層うだつ



現地レポート

地域資源を活かした活性化策

二層うだつの町並みを活かした 地域活性化について

『会音の和(あいねのわ)』、「つるぎの達人」の取り組み

徳島県

つるぎ町

ちよう



つるぎ町の概要

西日本第二の高峰剣山への登山口、徳島県つるぎ町。

つるぎ町は徳島県徳島市から西へ約50kmの吉野川中流南岸に位置してい

る。剣山系の南斜面から吉野川に注ぐ貞光川と半田川の流域に発展し、面積194・8km、うち森林が84%を占める。地形は起伏に富み、急峻な傾斜地に民家と耕地が点在している。

平成17年3月1日に半田町、貞光町、一宇村の2町1村が合併し、今年3月で10周年を迎える。人口は10、490人(平成22年度国勢調査)で高齢化率40%を超える。しかし、古くからの文化財を中心に据え、住民参加による地域活性化につながる様々な取り組みを行っている。

貞光地区は、古くから商業の町として栄えてきた。特に江戸時代には葉たばこの生産地として繁栄し、阿波藩内でも十指に数えられる巨商を生み、「商売の町」と呼ばれるほどであった。当時の繁栄を今に伝えるのが商家の屋根

フォーラム

に立つ「うだつ」である。「いつまでもぐずぐずして成長や発展がない」という意味で使われる「うだつが上がる」といふ言葉の語源となったものである。うだつの連立する町並みからは、当時の隆盛^{さかたけ}がうかがえる。

特に貞光^{さだみつ}のうだつは二層うだつと呼ばれる全国的に珍しいもので、美術建築としての風格も備えている。そんな歴史と情緒あふれる二層うだつの町並みを生かした地域振興や観光情報発信を行っている団体、「会音の和（あいねのわ）」と「つるぎの達人」の取り組みを紹介したい。

会音の和（あいねのわ）の取り組みの動機や内容

結成は平成22年度と比較的新しい。伝統的な町並みや昭和レトロな情景が

残る「貞光二層うだつの町並み」を地域の宝として活用し、女性が楽しめるイベントを開催、地域の活性につなげたいと動きだした。

現在、春には「桃花遊々（とうかゆうゆう）」、秋には「月花遊々（げっかゆうゆう）」というイベントを行っている。「桃花遊々」も「月花遊々」も、町の文化財である「旧永井家庄屋敷」また、国の登録文化財である「織本屋」を催しの中心に据えて、訪れた方が二層うだつの町並みや貞光地区の文化を楽しめるように工夫されている。

「桃花遊々」は、旧暦の桃の節句を祝うイベントで、開催期間中は、町内外から寄贈されたひな人形が町や古民家のいたるところに飾り付けられる。毎回、「おひな様の運動会」「おひな様もアドベンチャー」など、トレンドを



▷「桃花遊々」ポスター、躍動するひな人形

取り入れたテーマで、躍動感あふれるお雛飾りが好評を得ている。また、お雛さまとともに地域の花木を用いた大がかりな生け花がしつらえられ、季節感溢れる空間が創りだされることも特色のひとつである。メイン会

◁「桃花遊々」ひな壇を飛び出して大運動会



場の旧永井家庄屋敷敷で開催される和楽器の演奏会や童謡コンサートなどは、町並みや古民家の雰囲気とあいまって、情緒あふれるものとなっている。

秋に行われる「月花遊々」は中秋の名月を楽しむ夜のイベントである。お月見にちなんだ夜の飾り付けが行われるほか、二層うだつの町並みでは手作りの行灯400個によるライトアップが行われる。これらの行灯は、町内の子どもたち、また町内外から寄せられたイラストで作成される。集まった行灯を対象にデザインコンクールも行っている。

催しは、月をお迎えする神事で始まり、ミニコンサート、三味線や大正琴の演奏など、中秋の名月の夜を優雅に楽しんでいる。

「桃花遊々」「月花遊々」とともに、期間中には町内外から約3、500人が訪れるなど、多くの人々が交流する場となっており、地域が有する文化や人々の手により生み出された魅力の発信が行われている。

会音の和の特色ある活動

このイベントの特徴は、行政機関が入らず、企画から運営まで全て地域住民が行っている点である。現在、地域の女性が会長を務めており、会員の半



▷「月花遊々」三味線による演奏

フォーラム

▷「月花遊々」ポスター、手作りの行灯が情緒ある街並みをライトアップ



数以上を女性が占めている。女性ならではのコミュニケーションやネットワークは大きな広がりを見せており、年々イベントの規模や来場者が増加している。催しの内容も女性が楽しめる内容となっている。

春の「桃花遊々」秋の「月花遊々」など、イベントの内容の選定は訪れるお客様の意見だけではなく、会音の和の会員自身が、自分が行きたい、聞きたい、楽しみたいと思うものを企画している。よって、スタッフ側の会音の和会員も楽しみ、その楽しさが訪問者にも伝わっているようだ。会員自らが楽しむことにより、吸引力のあるイベントを創造することができているのではないだろうか。主役は自分たちであるということがイベントを成功させてきた秘訣かもしれない。

◁「月花遊々」男性中心の作業班の様子



スタッフの配置や組織もユニークだ。作業班、企画班、広報班などほかでもよく聞く担当であるが、会音の和には「まかない班」がある。準備から開催、片付けまで終日間に及ぶため、それに携わる人たちに食事の準備を行う班である。数回頂いたことがあるが、やはりとてもおいしい。あたたかい手作りの食事に会員内でも胃袋をつかまれている人も少なくない。

いであろう。広報についても約70人の会員全員が広報係である。

自ら準備に携わると、自然に、見に来てほしい参加してほしいと思うようになる。日頃のそれぞれのネットワークを通じて口コミで行う広報活動はとても力強い。「演奏聞きに来てよ」「人形飾ったから見に来てよ」「団子作ったから食べに来てよ」など、人と人のつながりを基本とした広報活動はものすごく効果がある。行政主体でのイベントとは、一線を画す盛り上がり方である。

つるぎの達人の取り組みの動機や内容

二層つだつの町並みの観光案内人である「つるぎの達人」の結成は平成17



▷まかない班による昼食準備の様子

◁町主催の観光ガイド養成講座の様子



年度である。町村合併によって大きくなった町の文化を学び合い、また自分の町の案内ができる観光ガイドを養成したのが始まりだ。町主催の観光ガイド養成講座(全12回)において、二層つだつなどの観光施設や文化財を半年間にわたって学んだ地域住民が中心となって結成された。自分たちの誇る地域の観光地や文化財を観光客に伝えるという活動に発展している。

全国の観光会社から、二層つだつの町歩きにガイドをお願いしたいと依頼が寄せられる。依頼の受け付けこそ町役場が行っているが、バスの到着から案内、お見送りまで1グループ約10名のお客様を達人1名が担当しガイドを行っている。

フォーラム

1グループ約10名というのも、達人が「お客様とガイドのコミュニケーションを密にするために」という希望によるもので、きめの細やかなガイドぶりが好評だ。何気ない会話にこそ、「楽しさ」があり、達人自身も交流を楽しんでいる。

町では二層うだつをはじめ、つるぎ町に来て頂いた方々との交流を深めるため「つるぎクラブ」という会を発足した。会員の方には情報を発信し、つるぎ町の応援団としてつながりを持ち続けていただくことができている。会報は「つるぎクラブツアー&イベント」と名づけ、二層うだつの案内イベント「ぶらぶら初心者ウォーク」や会音の和主催のイベント情報、各種ツアー情報やプレゼント企画など、町の魅力を発信している。現在会員数は約1000人である。春と秋のつるぎクラブ会報で情報発信し、つるぎ町のファンになっていただいた方や、地域住民の皆さんに喜んでいただけるものを目指し、イベントを行っている。

つるぎの達人の活動

はじめは、町の文化や歴史を知りたいという動機が集まったメンバーで、当初は「人前で話すことなんてとても」と遠慮がちな人も多かった。しかし、仲間で何度も研修を重ねていくうちに、新たな町の魅力を知ったり、

それを人に伝えて共感していただくということに喜びを見いだしたりしながら、とても積極的にガイドをするようになった。

講座受講当時は、メンバー同士初対面だという人も多かったが、今ではとても仲良く、年に1度その年の反省会を兼ねた忘年会では、旧来の知人同士のようにとても盛り上がる。観光案内をするということもとても楽しいが、ともに楽しみやつていく仲間の存在もとても大きいようだ。

達人には様々な経歴の方がおり、同じ場所を案内しても十人十色である。最初に作成された大まかなマニュアルはあるが、達人それぞれの個性で味付



▷観光客との会話を楽しみながら町並み案内

けされて、ひとりひとり違った魅力を持っている。そしてその違いを達人同士で楽しんでいるようだ。あのガイドさんにまた会いたいから、と再び訪ねてくださるお客様も少なくない。

課題と今後の取り組み

さて、人と人とのつながりを基本とした2つの団体の活動であるが、中心的に活躍している会員の年齢は50〜70代であり、若者の参加はどうしても少ない。今後活動を続けていくには、これまでのよいところを引き継ぎ、また、若年層の参加も見込めるような新たな展開が不可欠だ。一番の課題は「世代を超えた楽しみ方の共有をどう構築するか」であろう。会員内でも後継については頭を悩ませているとのことだ。

地域活性化で最も重要なのは「人」であるのは自明のことである。つるぎ町のような過疎の小さな町であっても、東京のような大都市でも、企業であつても変わらない。「人」が集まり、何かを成し遂げようと思うと個人でできる小さな行動から始まる。個の小さな行動が組織を作り、組織が地域を動かす。個がやれることの積み重ねがやがて大きな力となる輪となり力になり、地域の力や魅力になる。

今、「会音の和」や「つるぎの達人」によつて生み出されているのは、そういった基礎的な「人」と「人」とのつ

◁つるぎの達人のうだつ案内研修会の様子



ながりによる盛り上がりである。地域の魅力ができれば、また「人」が集まり、好循環につながるのだ。「人」の気持ちがつながれば地域が変わる。この、自ら楽しむという地域の姿勢が、若年層をも呼び込み、さらなる盛り上がりにつながることを期待している。

つるぎ町長 兼西 茂

◎町村週報のご購読◎

「町村週報」の購読を希望される方は、はがき FAXまたはEメール(kouhou@zckor.jp)にて、全国町村会広報部までお申し込み下さい。
★年間購読料1,500円(送料込み)
★請求書を送付いたしますので折り返しお振り込み下さい。

情 報

がんばってます、東北！

復興だより



世界一長い川俣シャモの丸焼き100羽に挑戦！

川俣町は、震災による大きな被害はなく、平穏な日々はすぐ取り戻せるものと思っていました。ところがその3週間後、町の山木屋地区が計画的避難区域に指定。町

目に見えない震災被害

2014年8月。晴天に恵まれ、「第12回川俣シャモまつり」が開催されました。2日間の来場者数が初めて1万人を超え、会場には香ばしい匂いとたくさんの笑顔、そして軽快なフォルクロレの音楽。全国各地からのあたたかい励みや思いに力を得て、東日本大震災の年も休まず続けてきたこのお祭りは、「元気な川俣町」の象徴なのです。

川俣シャモで元気を発信

～福島県川俣町～
かわまたまち

全体がまるで危険な状態であるかのような印象を持たれるようになってきました。町の主要な特産品として飼育・加工・販売していた川俣シャモは、売り上げが2割まで減少。いわゆる「風評被害」に見舞われたのです。それまで、阿武隈山地の豊かな自然の中、屋外飼育でのびのびと育ててきた川俣シャモでしたが、より安全性をアピールするため、200㎡にもおよぶ大型鶏舎を15棟建設し、屋内での平飼いを実施。エサも、肥育のために配合した川俣シャモ専用の飼料に切り替えました。やがて、安全でおいしい川俣シャモはなんとか復権を果たし、インターネットなどを通じて、全国各地から注文が入り始めました。

パワーアップで元気を発信

毎年8月末の土日に開催してきた町主催の「川俣シャモまつり」。震災の年の開催が危ぶまれましたが、むしろ川俣シャモの安全性をアピールするためにも、例年通りやろう！との声が上がリ、準備が始まりました。とはいえ、風評被害が蔓延する現状

で来場者はあるのだろうかと不安は拭えませんでした。そんな時、「世界一長い焼き鳥」、通称「セカチヨウ」を競い合った全国の自治体が応援にかけつけてくれることになり、復興を願う「セカチヨウ歴代王者の競演」といったイベントも盛り込まれました。各方面からの励ましや支援のおかげで、震災の年の「川俣シャモまつり」は、例年通りの盛況ぶりでした。この成功が町の地域産業復興の原動力となったのは言うまでもありません。その後毎年趣向を凝らす中で、川俣シャモの丸焼きイベントや大学生による子ども向けの人気企画が登場したりと、年々パワーアップ。まつりのその瞬間だけでなく、町は元気を取り戻しつつあります。



似てるかな？シャモの鳴き声コンテスト

おいしくて、
美しい町へようこそ

川俣町には、川俣シャモの他にも、フォルクロレの音楽の祭典「コスキン・エン・ハボン」や絹などの特産品もあります。田舎暮らしのイメージにありがちな「豊かな自然と穏やかな暮らし」だけでなく、人と人をつなげる「活気」が存在します。おいしくて、美しく、楽しい暮らし。そんな町の魅力を広く知っていただき、町外からの移住・定住者を増やしていけるよう、応援してくださる多くの方々の思いを力に、これからも邁進していきます。



東京工業大学の学生の企画による手作り「シャモロボコン」を手に、闘いの時を待つ子どもたち

情 報

第17回日本農林漁業のトップリーダー発表大会

日本農林漁業の未来を拓く

―トップリーダーからの情報発信―

食の安全・安心の確保、食料自給力の向上、
農林漁業の経営と技術の革新、健全な農山
漁村の再構築

日時 平成27年3月10日(火)

10時00分～16時30分

会場 東京大学弥生講堂 一条ホール・東京
都文京区弥生1-1-1会費 会場費・資料代として2,000円
(学生500円)

主催 日本農林漁業振興協議会

(会長 武部 勤)

プログラム

1. 開会挨拶 10時00分～10時10分

会長 武部 勤

2. 基調講演 10時10分～11時20分

「農業6次産業化への取り組みと課題
―緑の牧場を豚のテーマパークに―」

笹崎 静雄氏

株式会社「埼玉種畜牧場(サイボクハム)」
社長食料・農業・農村政策審議会畜産部会臨
時委員

3. 発表 11時20分～15時55分(各40分)

(1)「有機農業から広がる地域の未来
―6次産業化で所得向上―」

大塚 裕樹氏・早苗氏夫妻

北海道石狩郡新篠津村…

平成26年度日本農林漁業振興会長賞受賞
者、輝く女性特別賞受賞

日本農業賞

(2)「夫婦二人三脚による省力化、高収量、
高品質を実現した大規模模作経営」

小野田 裕二氏・倫恵氏 夫妻

愛知県西尾市…平成26年度天皇杯受賞者
(3)「半世紀3代に亘る協業経営「自己制
御、相互理解、協調」の実現」

原田 修氏

農事組合法人世羅幸水農園代表
広島県世羅郡世羅町…平成26年度天皇杯
受賞者(4)「周年放牧等による高い繁殖技術とス
トレスのない高い肥育技術」佐藤 宏弥氏・博子氏 夫妻
茨城県常総市…平成26年度天皇杯受賞者(5)「兼業による持続可能な小規模林業経
営を実践」

山川 弘保氏

岐阜県郡上市…平成26年度天皇杯受賞者
4. 大会講評 15時55分～16時25分東京大学大学院農学生命科学研究科国際
環境経済学研究室教授 鈴木 宣弘氏

5. 閉会挨拶 16時25分～16時30分

申し込み…メール (ifc@blueocean.jp)
又はFAX (03-3325-110555)
で、日本農林漁業振興協議会まで車両共済(保険)のご案内
(一般自動車保険の車両保険)この車両共済(保険)は、町村生協の自動車
共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定
搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの
補償(車両保険)」を追加する制度です。
お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗
難など偶然な事故で損害を被ったときに、
共済(保険)金をお支払いします。

町村生協の自動車共済にご加入の皆様なら!

●無事故による割引で新規から **42%(保険料)割引**・ご加入を希望するお車が町村生協の自動車共済で過去3年
無事故の場合は、ノンフリート等級9等級からスタートします。●集団扱年一括払いによる割引で更に **5%割引**

保険料分割払(12回)も選択可能です。

・保険料分割払をご利用の場合は上記の集団扱年一括払いの5%割引の適用はありません。

このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容については
取扱代理店(千里)までお問い合わせください。※この車両共済(保険)をご契約いただける方は、全国町村職員
生活協同組合の自動車共済に加入されている方に限ります。

●お見積りのご請求・お申し込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください●

株式会社 千里 (取扱代理店)

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内

●ホームページアドレス <http://www.chisato-ag.co.jp>

○お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください



(受付時間 月～金 午前9時30分～午後5時)

0120-731-087**FAX 03-3519-7325**

●「車両共済(保険)制度」は、全国町村職員生活協同組合と損害保険ジャパン日本興亜株式会社とが集団扱契約を締結し、実施しているものです。

●集団扱としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパン日本興亜の定める条件を満たす場合のみとなります。

詳細については、取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

(車両保険引受保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」は損保ジャパンと日本興亜損保が2014年9月1日に合併し誕生した会社です。

[SJNK14-13579 (2014.12.24作成)]

随 想

駅を中心としたコンパクトタウン
「駅に降りてみたい 歩いてみたい
住んでみたくなる町づくり」をめざして

福島県鏡石町長 遠藤 栄作



なっています。

私は「駅に降りてみたい 歩いてみたい」として住んでみたいまちづくりを一期目の公約としてスタートしました。ところが就任9カ月目にしてあの東日本大震災が発生し、震度6強の地震により住宅の23%（1,000戸）が半壊以上、小学校1校が全壊する大きな被害を受けました。この震災により思い描いたまちづくりが一時お預け状態となったことは言うまでもありません。

1期目の3年3カ月は、ただ夢中で地震による災害復旧、原発事故による除染対策などに全力で取り組む毎日でした。震災から2年11カ月で、復興のシンボルとなる全壊した小学校が完成し、町内の復旧工事もほぼ完了することができました。

このような震災復旧の中でも、何とか思い描いた「駅に降りてみたいまちづくり」に挑戦したいと思い、駅からすぐ目の前にある、町図書館の展望室から眺望できる「田んぼアート事業」に取り組みました。観覧者数も初年度5,600人、3年目の昨年は17,000人を数え、その内8割は町外からの見学者でした。また駅のトイレも災害時対応型

に新設し、復興のシンボルとなるモニュメントも、この3月には駅前に完成する予定です。

次に駅に降りてみたくなる「駅で買物」「駅で集う」「駅に行くことが楽しくなる」駅広場づくりのため、現在「駅前広場整備計画」に取り組んでおります。

また「歩いてみたい 住んでみたい」まちづくりとしては、本町の特徴でもある平坦で歩きやすく、田畑が市街化区域に隣接した良好な環境を活かし、町の財産でもある唱歌「牧場の朝」のイメージを歩きながら感じ取れる、街中ウォーキングコースに新年度から取組んでいくこととしています。住宅に関しては、現在駅東側に2年後の完成を目指して、約10haの土地区画整理事業を進めており、今年から一部住宅建設が可能となります。

本町は福島県の中心都市「郡山市」のベッドタウンとして、また東京にも日帰りできる便利な町として、さらに歩いてみたい、住んでみたくなる町として、駅を中心にしたコンパクトタウンづくりに取組んで参りたいと思っています。

鏡石町は、戦後の国営開拓事業で「日本三大開拓地」の一つである「矢吹が原開拓地」にあり、唱歌「牧場の朝」のモデルとなった、日本で初めての西洋式牧場（岩瀬牧場）がある農業の町であります。

位置は、福島県の中通り地方にあり、県の中央にある郡山市と東北の玄関口となる白河市の中間に位置しています。総面積は、31・25㎢と県内で3番目に小さな町で、約半分が農地、森林面積は僅か13%と平坦な地形と田畑に囲まれ、人口は平成22年国勢調査時で12,818人と、微増を続けてきた人口の減らない町であります。

その理由としては交通の利便性にあります。東北自動車道（鏡石スマートIC）、国道4号線、JR東北本線（鏡石駅）が南北に縦断し、福島

空港へは車で15分、東北新幹線の「郡山駅」、そして「新白河駅」までは電車で20分前後、東京駅へは2時間という交通の利便性がとてもよい町であります。特に特徴的なことは町の面積が小さいところに鏡石駅が町の中央にあり、駅から半径1km以内に人口の約6割強の住民が住んでいることで、まさに歩いて暮らしやすいコンパクトな町なのです。

私は町職員からの首長であり現在2期目となりますが、職員時代からまちづくりには関心がありました。職員は、担当部門の中でしかまちづくりは叶いませんが、首長は全ての分野のまちづくりに携わることができます。職員時代は辞令の紙一枚でいつこの課に配属されるかわかりませんし、来年の夢を思い描いても異動すれば新しい仕事をするごとに